

BAUHAUS

日本バウハウス協会

NEWS RELEASE

第一次世界大戦終結の翌年、今から100年前の1919年にドイツの小都市ヴァイマールに開校されたバウハウスには、20世紀絵画に革命をもたらしたヴァシリー・カンディンスキー、パウル・クレーといった前衛画家たちが教壇に立ち新しい造形理論を展開しました。創設者で建築家のヴァルター・グロピウスは〈バウハウス宣言〉の中で「我々が目指すものはあらゆる造形芸術を統合する『大建築』である」と書いています。バウハウスの理念は、当時台頭した「機械vs.人間」の構図の中に失われつつあった精神的意味の回復であり、科学技

術と造形芸術との調和に見出すべき新たなライフスタイルの提案でした。

日本バウハウス協会の発足は、バウハウス101年目を迎えて、バウハウスのみならず20世紀初頭以来の文化を大きな視野で捉えなおし、バウハウスの今日的意味を歴史的評価の鏡に新たに映し出す試みです。このことが、複雑化する現代社会で見失いがちになる「調和」を共創するためのプラットフォーム形成に寄与し、新たな生活のデザインを求める人々の羅針盤になることを願います。



101年目のバウハウス

100年続いたバウハウスのデザイン教育。世界各国で受け継がれていった、モダンデザインの潮流。それは風になり、空気になり、カタチをいろいろ変えて生き残った。デザイナーの心の深いところに一度はバウハウスという言葉は残り、新しいデザインを考える時にあれだけ有能なマイスターたちの痕跡、それらを目にするとき、思考と思考がぶつかり合いカタチとカタチがぶつかり合い、未来をカタチづくるとき、そこには爆発の現場が立ちあられ、羅針盤として、日本人の表現活動にし続けなければいけないと思う。NIPPON BAUHAUSはまだまだ知らないことや気がつかなかった大きな事柄、マイスターたちの知恵や研究を水源として、地平線の彼方からやって来た。デザインの本質は、記憶の海に沈めてはもったいない。

1954年、バウハウスの創始者、グロピウスが桑沢デザイン研究所の桑沢洋子さんを訪ねてきて、「桑沢デザイン研究所にはバウハウスの教育の精神がある。」と記録を残してくれた。幸いなことにミサワホームにはバウハウスの残像を秘めた作品群が残されている。浅葉ゼミ18名は毎年ミサワのバウハウスコレクションを授業の一環として杉田佳穂さんのレクチャーのもと、見学させてもらっている。2019年にはバウハウス100周年を記念して、ミサワホーム会長の竹中宣雄

氏を中心にワイマール、デッソウ、ベルリンを見学に行った。新設された美術館にはドイツの伝統になった大切なバウハウスの作品群が展示されていた。

そして毎年卒業生の有志が川畑明日佳先生とデッソウのバウハウスを訪問して、トルステン・ブルーム博士とリンザ・ベンゼ女史のテーマ「ガラスダンス」の教育を受ける。平面から立体へ。そして出来た作品を自分で纏い表現するのだ。案内役は新藤真知さん。2019年には来日して特別講演会を開催してくれた。

2019年秋にはドイツのケムニッツで第7回マリアンネブランツ賞の最終審査があり、川畑先生と飛行機、汽車を乗り継いでケムニッツ入りし、デッソウバウハウスの館長ペレンさんとガラスをテーマにした作品の選考をした。experiments賞はガラスを中心に踊るパフォーマーが受賞。写真賞とプロダクトデザイン賞も選んだ。やがて立派なカタログが送られてくる。バウハウスの作家賞が生きていることに感動した。

2020年。コロナ禍により桑沢デザイン研究所の卒業式、卒業制作展は延期され、デッソウバウハウスへの訪問も中止された。

東京造形大学の美術館で開催予定の「ミサワホーム、浅葉克己とバウハウス展」も一年延期して2021年の開催予定となった。

一年に6点を創り続けたミサワ・バウハウスの作品も80作を越えた。

コロナ禍が世界に拡大して止まることなし。

有名なクレーの日記には、「1918年11月14日。どう見てもインフルエンザにかかって一昨日熱と咳が出た。しかし夢のような一夜を過ごす、すっかり元気になってしまった。」スペイン風邪に感染して生き残った数少ない人物だ。ポール・クレー 38歳だった。クリムトや辰野金吾もスペイン風邪で亡くなった。

世界を回るとバウハウスの作品に巡り合うこともある。AGI(国際グラフィックデザイン協会)のメキシコ会議の時、ルイス・バラガンの家を訪問し、リビングルームにジョセフ・アルバースの作品が展示してあり驚いた。ルイス・バラガンの言葉に「私に強い影響を与えたのは、キリコの絵です。詩人ではガルシア・ロルカ、ボードレールも好きです。人は隠れる場所、孤独になれる空間を必要としています。」いい言葉ですね。

今年は、バウハウス100周年で見た映画、マックス・ビルに感動し、今、マックス・ビルをどう表現したらいいのか製作中です。

組織

日本バウハウス協会 理事および役員

理事長	浅葉克己	評議員	織田正雄
副理事長	竹中宣雄		樫村弘子
	田中辰明		柚本 玲
理事	浅野忠利		本橋成一
	加藤道夫	チーフアドバイザー	澤田誠二
	黒川 剛	事務局	櫻澤雅樹
	作尾徹也		城井廣邦
	新藤 信		西塚典子
	鈴木敏彦	監事	岩永正敏

日本バウハウス協会 提携団体・研究者

デッサウ・バウハウス財団 Stiftung Bauhaus Dessau	ミヒャエル・ジーベンブロート Michael Siebenbrodt (元ヴァイマル・クラシック財団研究員 「Das Bauhaus kommt aus Weimar」著者)
ヴァイマル・クラシック財団 Klassik Stiftung Weimar	ヤンニーネ・フィードラー Jeannine Fiedler (バウハウス研究家、「Bauhaus, h.f.Ullmann」著者)
バウハウス文書館(ベルリン) Bauhaus-Archiv	トルステン・ブルーメ Torsten Blume (デッサウ・バウハウス財団研究員)
イエルク・グライター Prof. Dr.-Ing. habil. Jörg H. Gleiter (ベルリン工科大学建築学科教授元バウハウス大学教授)	
マクダレーナ・ドロステ Prof. Dr. Magdalena Droste (元バウハウス文書館学芸員 Taschen「Bauhaus」著者)	

事務局

一般社団法人 日本バウハウス協会 事務局

〒168-0071

東京都杉並区高井戸西1丁目1番19号

高井戸西館4F

日本バウハウス協会 NIPPON BAUHAUS SOCIETY

TEL: 03-5941-9098

FAX : 03-5941-9099

HP : <http://nipponbauhaus.jp/> MAIL: info@nipponbauhaus.jp

事務局担当 城井廣邦 西塚典子

(一社)バウハウス協会の活動について

お茶の水女子大学名誉教授 田中辰明

バウハウスは今から100年前に作られた芸術の学校であって、今更学ぶべきことはないのではないかとお考えの方も多いのではないかと存じます。バウハウスが主なる活動を展開したヴァイマル、デッサウはドイツが東西に分割されていた時代(1949～1990年)は東ドイツ(ドイツ民主共和国)に属していました。旧東独はバウハウスについて全く関心を持っていませんでした。バウハウスに関する研究が活発になったのは東西ドイツが合併されてからの事です。2019年はバウハウス設立100周年で、これを記念し、沢山の映画が作成され、ドイツの公共放送を通じて放映されました。映画製作のために新たに研究が行われ、私共も新しいことを沢山学ぶことが出来ました。バウハウスは建築のみならず、織物、陶芸、金属加工、写真、ポスター、絵画、彫刻、舞台、体育と非常に多岐にわたる研究、学習を行いました。またバウハウスの教授陣の名声は素晴らしいものがあります。バウハウスの存続期間はヴァイマル共和国の存続期間と一致します。女性にも参政権が与えられ、史上最も民主的と言われたヴァイマル共和国でしたが、20の内閣が出来ては潰れるという不安定な時代でした。バウハウスはこの影響をまともに受けました。そして最後は合法的に政権を得たヒトラーにより、解散を余儀なくされました。ヒトラーの台頭はベルサイユ条約で払いきれない賠償金のため続いた深刻な不況に絶望した大衆を巧みな宣伝と演説で味方にしたことによります。突然襲ったコロナ禍の危機はポピュリズムを生み、大恐慌から第2次世界大戦へ向かった当時を思い浮かばせます。バウハウスを勉強することは現在を考えることにつながります。バウハウスは大量生産により民衆に手の届く製品を創造する事に腐心いたしました。バウハウス発祥の地ヴァイマルはマルチン・ルターが(神聖ローマ帝国)皇帝カール五世により保護され、ギリシャ語の聖書をドイツ語に訳したヴァルトブルグ城から75km離れたところにあります。またマルチン・ルターが95ヶ条の論題を提出し宗教改革を行ったヴィッテンベルクの教会はデッサウから25kmの位置にあります。バウハウスは極めてプロテスタントの強い土地で活動を行ったという事になります。プロテスタントの考えは大量生産、工業化に向いていたのです。バウハウスの優秀な卒業生で、ナチスに協力し、強制収容所の施設を設計

した人もいます。亡命もせずドイツに残ったバウハウス卒業生はナチスに協力しなければ生きていけない時代だったのです。このようにバウハウスに関してはまだまだ知られていないことが沢山残っております。未だ知られざるバウハウスについて私共は研究、調査を行っていく所存です。

(一社)日本バウハウス協会は年4回の理事会で運営方針を定め、年1回の総会でお諮りし、毎年の活動方針を決定いたします。当面の活動はバウハウスに関する研究、調査、その発表であります。2020年は日本建築学会大会に7名の理事、評議員がそれぞれの研究を発表する予定で、論文を学会に提出いたしました。しかしコロナ禍のために千葉大学で行われる予定の発表は中止になりました。今後は協会独自の発表会を催します。その際には一般会員の方にもご報告いただきます。その他当面は年一回の会報を出版いたします。この会報にも一般会員の投稿を歓迎いたします。ドイツのヴァイマル、デッサウにおけるバウハウス財団、ベルリンのバウハウス文書館とも連携し、情報交換を行います。また適宜それら機関から専門家をお招きし講演会を実施いたします。協会の運営は会費、寄付金をもって行いますので、その使用は公正なものでなければなりません。そのために監査役を置き、会計の報告は総会で行い承認を得るように致します。どうか皆様のご賛同を得、一緒に末永く活動を継続できることを希望いたします。

今後の活動

日本バウハウス協会宣言

日本バウハウス協会を設立します

今なぜバウハウスなのか

私たちのデザインはどこに向かうのか

日本の創造性はどうかあるべきか

多様性とモダニズムの根本がここにある

1919年ヴァイマルに創設されたバウハウスは、20世紀の建築とデザインの礎を築いた国際色豊かな芸術学校です。新しい教育、ユニークな発想、シンプルな素材、形と機能で今日のデザインを実現しました。バウハウスには理念があります。わずか14年間で閉校しましたが、影響を受けた人々が世界中にその精神を伝えました。2020年の多様性と混迷の社会を生き抜く時に、バウハウスの創造性が私たちと智慧の源泉となるのです。

一般社団法人 日本バウハウス協会は、ドイツのバウハウス研究機関と提携し、バウハウスの理念を啓蒙する日本で唯一の非営利団体です。

バウハウスから本質を見る目を養おう

ヴァイマル共和国で1919年に創設されたバウハウスは、第一次世界大戦直後からナチスが選挙で勝利し政権をとるまでの14年間という短い間に、総合芸術をとなえ、近代の建築とデザインの礎を築きました。産業革命の後に、ヨーロッパでは製品の品質低下が相次ぎ、ドイツヴェルクブント(工作連盟)は経済の活性化に向けて工芸と機械の在り方を論じました。初代校長ヴァルター・グロピウスはバウハウスを開校し、国際色豊かな教員と学生と共に、絵画、彫刻、グラフィックデザイン、タイポグラフィ、プロダクト、舞台、建築に挑みました。ヴァイマル、デッサウ、ベルリンの3つの校舎を移動し、ハンネス・マイヤーとミース・ファン・デル・ローエを歴代の校長に迎えながら、理想の社会の実現を目指して生活のトータルデザインを実現していきました。

こうして伝統的な手工芸技術と工場の大量生産技術の融合が始まりました。産学共同の取り組みから木製玩具、照明、スチールパイプの椅子が生まれ、ガラスと鉄とコンクリートで構成されたデッサウ・バウハウス校舎は新時代の象徴になりました。女性の参画や、グロピウスの自由闊達な精神と熱心な活動の成果は瞬く間に世界に伝わり、幾何学的な造形や、限られた素

材と色彩で構成したデザイン国際様式の先駆けとして普及していきました。バウハウスはモダニズムの出発点となり、戦後の日本やドイツ連邦の教育制度を主導し、デザイン教育に大きな影響を与えました。

ユネスコの世界遺産に登録された「ベルリン、ヴァイマル、デッサウ及びベルナウのバウハウスとその関連遺産群」は、今なおアクセス可能な知の源泉です。一般社団法人日本バウハウス協会はドイツのバウハウス・デッサウ財団、ベルリン・バウハウスアーカイブ、ヴァイマル・バウハウスミュージアムと提携し、バウハウスの最新情報およびその教育とデザイン理念を日本に伝えます。豊かさの本質を問い、教育、建築、デザインを再考する時に、バウハウスがその羅針盤となることでしょう。

私たちは5つの活動を行います

『日本バウハウスマガジン』

バウハウス・デッサウ財団が発行する出版物や活動を紹介する『日本バウハウスマガジン』をオンラインで発行し、会員に配布します。

バウハウス研修ツアー

建築とデザインを学びたい個人、大学、企業のグループを対象にツアーを開催します。ドイツのベルリン、ヴァイマル、デッサウのバウハウス関連施設(美術館、集合住宅、財団、企業)を訪ねて、財団の研究者からレクチャーを受けます。

ダンス・ワークショップの開催

デッサウ財団の学芸員で研究員のトーステン・ブルーム氏の指導により、東京またはデッサウでバウハウスを学び、衣装を制作し、バウハウスのダンスを演じる体験型ワークショップを開催します。大学や企業のグループを対象とします。

バウハウス・セミナーの開催

バウハウス研究者のマクダレーナ・ドロステ氏をはじめとする専門家の来日講演、およびバウハウス研究者によるセミナーを会員、一般に向けて開催します。

日本バウハウスデザイン賞

バウハウスに関する著作物を公募し、優れた作品、書籍、論文には日本バウハウスデザイン賞や奨励賞を授与します。また、デッサウ・バウハウス財団のアーティスト・イン・レジデンス・プログラムと連携します。

入会

一般社団法人 日本バウハウス協会入会のご案内

入会をご希望の方は入会申込書その他の提出書類を日本バウハウス協会事務局までお送り下さい。

入会審査において入会が承認された方は会費を納入いただいた後、正会員となります。

1. 入会資格

日本バウハウス協会の目的に賛同する法人・個人。

当法人はグロピウスの理念に基づき設立したバウハウスの理念を現代に普及拡大することの目的に賛同します。

2. 会員の構成

当会には以下の会員があります。

- (1) 正会員 ・特別賛助会員 ・後援法人会員 ・一般法人会員 ・一般会員
- (2) 賛助会員 ・教育 ・学校法人会員
- (3) 学生会員

3. 必要事項

日本バウハウス協会に入会するためには推薦者(日本バウハウス協会正会員に限る)1名の署名捺印が必要です。

推薦者となる日本バウハウス協会会員が身近にいらっしゃらない場合は日本バウハウス協会事務局までご相談ください。もしくは指定の用紙に300文字レポート(バウハウスに期待すること)を提出していただくことで推薦者は不要となります。

4. 提出書類

- (1) 入会申込書(推薦者の署名・捺印が必要です。)
- (2) 顔写真(入会申込書に貼付)
- (3) 預金口座振替依頼書(年会費振替用)